

3 8歳女性の2度の早期流産 と出産を通じた 妊娠の脈状と予後の考察

山田恵美 吉岡広記
吉岡鍼灸院

一般社団法人日本東洋医学会 利益相反（COI）開示

山田恵美

演題発表に関連し、開示すべき利益相反（COI）
関係にある企業などはありません。

目的

- ▶ 同一女性の3度にわたる妊娠の
鍼灸治療を通じた
妊娠における脈状の意義の考察

対象

▶仕事：自営業

▶肥瘦：肥人

▶月信：27～30日

▶生活：常に寝不足状態（不規則な生活）

▶治療頻度：週4～6回（出産後は月1～2回）

▶脈證 人迎氣口診：気虚寒湿のやや逆 $\tilde{K} > \bar{J}$ 遅
(気口沈濇 > 人迎沈滑)

六部定位診：肺経虚證

流産 1

▶ X年7月下旬

- ・月経前に虚劳寒湿の順となる $\underline{k} > \bar{j}$ 遅
(気口浮濇 > 人迎沈滑)
- ・日頃は月経前の脈證変化はない

▶ 9週目に稽留流産

- ・この間の治療で、1度も気口脈が沈むことがなかった
- ・搔爬手術後28日で月経が始まり、日頃の脈證（気虚寒湿のやや逆）に戻った

出産

▶ X + 1年2月中旬

- ・ 月経前に虚勞寒湿の順となる $\underset{\sim}{\kappa} > \bar{\text{丁}} \text{ 遅}$
- ・ 治療後に気口脈が沈濇となる (気口浮濇 > 人迎沈滑)

▶ 6週目以降

- ・ 気虚寒湿のやや逆となる $\tilde{\kappa} > \bar{\text{丁}} \text{ 遅}$
(気口浮濇 > 人迎沈滑)

▶ 10月下旬、帝王切開

- ・ 10月初旬に無理をし、臍帯下垂に加え逆子となる

流産 2

▶ X + 2年6月中旬より月経が再開（授乳中）

- ・ 出産後は虚劳寒湿で推移 $\underline{K} > \bar{J}$ 遅
(気口浮濇 > 人迎沈滑)

▶ X + 2年8月中旬

- ・ 月経前より虚劳虚寒の逆となる $\underline{K} > \underline{J}$ 遅
(気口浮濇 > 人迎浮濇)

▶ 6週目、流産

- ・ つわりなし

考察 1 月経前の脈状変化

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

- ▶ 日頃の陽虚（気口脈沈）から陰虚（気口脈浮）へ転ずる → 腎の虚損 = 3例とも予後不良

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 腎の消耗度の差 → 脈状に現れている

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑 濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 治療後の気口脈の変化（浮沈）

沈む → 腎の旺気 = 妊娠を維持する力がある

沈まず → 腎の損耗は深刻

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑 濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 治療後の気口脈の変化 (滑濇)

滑 → 多血 = 予後良

濇 → 少血 = 腎は盤石ではない

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑 濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 出産に至ったものの

6 週目から陽虚へ転換 → 腎の一応の安定
 濇は変化せず → 平時の消耗を現す

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 流産 2 → 人迎脈浮濇

出産後から陰虚（腎の回復が不完全）が続く
陰虚風動 = 腎の虚極（≡ 出産直後の状態）

結語

気口脈の浮沈滑濇と治療後の脈状変化は
妊娠の予後を診るうえで
指標となることが示唆された

*本スライドは、吉岡鍼灸院HPにて公開する。